

令和6年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知しんほんまち分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	学校像	○子どもたちが楽しく学べる学校 ○保護者が安心して子どもを任せられる学校 ○地域にとってなくてはならない存在の学校 ○教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき組姿の概要現に	I 主体性を育む授業づくり・授業改善 ・生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・指導と評価を一体化した授業改善 ・ICT教育の充実
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子どもも誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	児童生徒像	○知「確かな学力」を身に付けた生徒 ・基礎的な知識・技能の学びを通して、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた生徒 ○徳「豊かな心」を身に付けた生徒 ・自他を理解し、他者と協調・協働することができる力を身に付けた生徒 ○体「健やかな体」を身に付けた生徒 ・将来の社会参加(就労)に向けて、たくましく生きるための健康や体力を身に付けた生徒		II 社会生活・職業生活に必要な力の育成 ・生活する力・働く力のスキルアップ ・保護者や関係機関との連携 ・余暇活動の充実 III 地域貢献・地域防災 ・地域貢献活動の推進 ・防災教育の充実 IV 働き方改革 ・助け合い、思いやり、メンタルヘルスケア

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上・教育内容の充実	主体性を育む授業づくり・授業改善	○生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、意欲を育てる指導力向上 ○「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう力」の育成	【現状】 ①生徒理解を深め、学びに向かう意欲を育てることに重点を置いて取り組んだ。 ②学習規律や社会のルールを深めながら、各教科の内容を重視した授業を行っている。 ③ICT活用が進み、生徒がPCを使う授業が増えた。効果的な活用ができるよう校内研修を行っている。 【目標】 ①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会開催:10回 ②指導と評価を一体化した授業改善 ・教科横断的な指導の年間計画、シラバスの検討:8月、12月 ・目標と評価、方法について研究:8月、12月 ・公開授業の実施:各学習グループ1回以上 ③ICT教育の充実 ・効果的な活用方法の研修:3回以上 ・他校とのリモート交流:3回以上	①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会開催 ・SC、SSWとの連携強化 ・教職員間の情報共有 ②授業改善 ・校内研究で計画的な取組推進 ・教科横断的な視点の学習計画、実施 ・公開授業の実施、検討 ③ICT機器の効果的な活用 ・教職員間の学びあい ・他校とのリモート交流授業実施 ・GIGAスクールサポーターによる支援	B *教員数が昨年度の約2倍になり、情報共有に時間を要した。	①生徒理解 ・継続 ②授業改善 ・継続 ・公開授業実施 ③ICT活用 ・計画的に実施	①生徒理解を深め学ぶ意欲を育てる ・生徒支援会10回以上開催、情報共有、適切な支援について検討 ・生徒理解や適切な支援方法について研修実施 ・95%の教職員が生徒理解に努めたと回答 ・85%保護者が学校は子どもの気持ちに寄り添った対応をしていると回答 ②指導と評価を一体化した授業改善 ・校内研究で計画的な取組推進 ・教科横断的な視点の学習計画、実施 ・公開授業の実施、検討 ・95%の教職員が授業改善に取り組んだと回答 ・93%の生徒が授業の目標が分かると回答 ③ICT教育の充実 ・教職員間の学びあい ・他校とのリモート交流授業実施 ・95%の教職員がICT活用に努めたと回答 ・73%の生徒がパソコンを使った授業は分かりやすいと回答	B ・授業や体験的な学習とともに多岐にわたる内容に取り組んでいることが分かる。 ・プリント学習だけではなく、具体物を使い、生活につながるよう工夫されている。 ・体験的な学習は生徒の記憶に残っている。 ・修学旅行を題材に、他教科と横断的に学習したことで興味がわき、旅行の体験と学習したことが結びついている。	①継続 情報共有、研修実施により生徒理解に努め、適切な対応を行う。 ②継続 授業改善の制度を高め、スキルの向上を目指す。 ③継続 生徒に分かりやすく効果的な活用とする。
	キャリア教育の充実	○多様なニーズに対応した職業教育の推進 ○自分を知り、自分らしく生きていく力の育成	【現状】 ①職業学習ではステップアップシートの活用率が87%となり、生徒は現場実習を経験して、働くことへの意識が高まっているが、物や時間の管理など生活面の課題が残る。 ②保護者や関係機関との連携は進んでいる。 ③休憩時間の過ごし方や良好な人間関係を築くことに課題がある。 【目標】 ①生活する力、働く力のスキルアップ ・自ら考える振り返りの時間設定:実習前後 ・自己評価、他者評価のすり合わせ:個別面接 ②保護者や関係機関との連携 ・情報提供:進路便りの発行年間3回以上 ・実習先、進路先の確保:年間30件以上 ・個別相談会、職場見学の企画運営 ③余暇活動の充実 ・クラブ活動の充実:入部者数、大会等出場者の増加 ・生徒会活動の活性化:生徒主体の行事運営増	①生活する力、働く力のスキルアップ ・JSP制度による専門家の指導・助言 ・ステップアップシートの活用促進 ・道徳、職業など関連する教科で横断的な学習推進 ②連携 ・保護者への情報提供 ・職場見学による意識の向上 ・現場実習、デュアル実習の実施 ・個別相談会による保護者、関係機関との情報共有 ・小・中学校等、入学前機関への情報提供や円滑な引継ぎ ③余暇活動 ・各クラブへの体験入部を促す ・学園祭や大会出場	B B	①スキルアップ ・計画的に実施 ・シートの活用 ・関連教科の意識 ②連携 ・計画的に実施 ・現場実習、職場見学 個別相談会実施 ・進路だより発行 ③余暇活動 ・継続 ・学園祭実施12月14日	①生活する力、働く力のスキルアップ ・JSP制度の活用により実践的なスキルや働く際の心構えなど向上 ・ステップアップシートの活用促進 ・道徳、職業など関連する教科で横断的な学習を推進 ・81%の教職員がステップアップシートを活用したと回答 ・83%の生徒が目標をもって職業実習に取り組んだと回答 ②保護者や関係機関との連携 ・PTA職場見学、現場実習見学、個別相談会を実施し、関係機関との情報共有を推進 ・体験入学、学校見学を実施し、入学前には個別相談を実施 ・100%の保護者が学校は保護者への情報提供を行い、他機関と連携して職業教育の充実に取り組んでいると回答 ③余暇活動の充実 ・各クラブ入部者数、大会参加増加	B ・現場実習の2週間では初日から最終日まで大きな成長が見られる。 ・ステップアップシートはシート自体が難しいのであれば改善し、使いやすいのにしていくと良い。 ・余暇活動の充実は将来とても大切。大人になって、仕事以外の楽しみを見つけていることが難しい方がいる。 ・軽音楽部の校外発表の場として、地域と一緒に考えてほどうか。	①継続 働く力の基盤となる生活する力を育てるため、ステップアップシートの活用を進める。 ②継続 PTAと協力して保護者や関係機関との連携を進める。 ③継続 健康的な生活習慣が身に付くよう運動したい気持ちを育てる。
学校設定項目	地域貢献	地域貢献活動を通した学びの推進	【現状】 ①久万川周辺や近隣公園、公民館の清掃に取り組んだ。 ②場所によるゴミの種類や量についてグループごとに検討し、ICTを活用して校内で発表できた。 ③学園祭への参加やアルミ缶回収など地域の協力を得られた。 【目標】 ①地域清掃活動の定着:月2回以上 ②アルミ缶等回収の継続:3Rの実践 ③学園祭開催:12月	①地域清掃実施、実施後、検討発表の定着 ②SDGs目標11、12について学習、地域への発信 ③学園祭で地域感謝祭実施	B B	①継続 ②継続 ③12月14日実施計画中	A ①地域清掃は生徒会主催となり、清掃後の振り返りでは地域美化の意識が向上。地域合同を呼びかけたが、参加はなかった。 ・職業学習の一貫で、公民館清掃、公園清掃実施。感謝やねぎらいの言葉をかけてもらえることが増えた。 ・80%の生徒が地域清掃やリサイクルなど社会貢献したと回答 ②SDGsの取組に関して、生徒の意識は向上したが、地域への発信方法は検討の余地がある。 ・88%保護者が学校は地域清掃やリサイクルを通してSDGsの学習に取り組んでいると回答 ③学園祭は、外部参加者が90名を超え、内容が充実してきており生徒は充実感をもてた。	A ・授業の一環で清掃を行うことは、地域のニーズに合っている。 ・町内住民が生徒に感謝の意を伝えることは大事。町内会でも生徒に声をかけるよう伝え合う。 ・地域と学校のつながりは大切に良い取組。	①継続 地域の方と合同で清掃活動ができるよう発信。 ②継続 生徒の取組を発信していく。 ③継続 学園祭の内容を充実させる
	防災教育	防災教育の充実	【現状】 ①外部専門家による災害対策の授業実施や防災士によるHUG訓練、起震車体験を行い、生徒の防災意識向上につながった。 ②避難訓練を実施し、適宜マニュアルの見直しを行っている。 ③教科横断的な学習に取り組んでいる。 【目標】 ○防災について学びを深める:外部専門家との連携3回以上	①外部専門家との連携 ②避難訓練計画実施 ③教科横断的な学習の計画実施	C C	①9月20日外部講師による地域合同「防災学習の日」実施 ②継続 ③継続	A ①外部専門家と連携し、講話、体験、訓練などを行った。 ②年間6回避難訓練、マニュアルの見直しを実施 ③訓練と他教科の教科横断的な学習を計画実施 ・93%の生徒が自分の身を守る方法が分かったと回答 ・92%の保護者が計画的に取り組んでいると回答	A ・計画的に防災教育が進められている。 ・これまでとパターンを変えた避難訓練や防災食を使った調理の体験なども進めてほしい。	①②継続 外部専門家と連携して危機意識をもった訓練実施 ③他教科との横断的な学習を進める。
働き方改革		教職員相互の思いやりと助け合いのある学校づくり	【現状】 ①少人数であり、一人が抱える業務量が多かったが、これ以上の業務の精選は難しい。 ②教材フォルダの活用率は67%にとどまっている。 ③約半数が休憩時間にはリフレッシュできていない。 【目標】 ①教材フォルダの活用の推進:授業準備時間の確保 ②長期休業中のメンタルヘルスケア実施:1回 ③不祥事防止対策:年会3回研修実施	①教材データの蓄積、利用促進により先々の準備時間軽減につなげるよう周知 ②夏季休業中にメンタルヘルスに関する講座実施 ③不祥事防止研修実施	C C	①継続 利用方法など周知 ②8月23日実施 ③2学期中に1回計画中	B ①教材データの蓄積、利用促進により先々の準備時間軽減につなげるよう周知 ・91%の教職員がICTを活用して業務改善につなげたと回答 ②夏季休業中のメンタルヘルスに関する講座は好評であった。 ③不祥事防止について、3回以上研修実施 ・随時、教職員の意識向上を図った。 ・全教職員が不祥事防止を自分事として意識し注意していると回答	B ・ICT活用に関して、得意不得意にかかわらず全員が使いやすくなるよう研修など行っている。	・教材フォルダの活用を促進、データの蓄積により、授業準備時間の短縮を図る。 ・多忙化解消に向けて分掌業務の平準化を進める